若楠会報

四條畷学園同窓会

第8号　URL：http://dosokai.link/shijonawate-gakuen/
E-mailはWEBサイトの問い合わせをご参照ください
2018年4月1日発行

懐かしく思う時――それが同窓会の時

～学園の思い出と今

●学校法人四條畷学園
全学同窓会会長
大西　寛治

怖かった職員室でも戻りたいあの日々

厳しい冬から穏やかな春へと季節が移りました。寒い季節は暖かかったところを懐かしく、暑い季節は寒かった季節を懐かしく思うものです。子供の頃は早く大人になりたい。大人になればもう一度子供の頃に戻りたいと思うものです。人間の身勝手さですね。私は、今年のお正月で67歳にもなりました。会議や行事ごとで母校に戻る回数が増えました。学生時代は職員室に入ることすら恥ずかしく嫌でした。褒められて入ることはなく、怒られる時しか入ることがありませんでした。男の先生方はスーツ姿できりりとネクタイを締めておられました。女の先生もスーツ姿でした。黒板のチョークで腕が白くなっていました。そんな全先生方は偉大で怖いとしか感じませんでした。そんな恐怖心ばかり抱いていた生徒も、今では教職員よりも年長者になりました。中身のない歳ばかり取ってしまったと後悔ばかりしています。

学園にお世話になった時には、現中学校舎の場所に幼稚園舎がありました。建物だけ残っており、幼稚園は前年度に小学校の西側に移転していました。今、温水プールがある所には木造二階建ての大きな道場がありました。ここは茶道・華道の教室や宿直室になっていました。今の体育館のところは一段高くなりテニスコートがあり、周りに桜が植わり、入・卒業式には満開の桜が祝ってくれているのが印象に残っています。本館の東側には体育館、プール、食堂・売店がありました。食堂のメニューは、カレーとうどんだけでした。あのカレーの味が忘れられず、もう一度食べたいという想いを募らせています。食堂の横には校務員さんの部屋がありました。休み時間には遊びに行き、お茶を頂きました。校務員さんは祖父のように我々を温かく見守ってくれました。一時、本館建て替えの論議が持ち上がりました。先輩方の存続運動が実り、当時のままの外観を残していますが、煤瓦タイルの外壁は学園の象徴で、文化遺産です。学園を訪れた時に本館を見るとなぜか安心します。

母校は同窓会の場　思い出の輪を広げたい

皆さんにとっても、その時代、自分を取り巻いていた環境・恩師・同窓生が最高の思い出でしょう。そのことを懐かしく思い返す時が来るでしょう。その時こそ同窓会を開催し、思い出話に花を咲かせてください。母校も同窓会の会場として利用してください。

今年も中学卒業生を対象にした成人式が、成人式当日の午後からこの母校で開催されました。それぞれの市主催の成人式出席後に、正装した新成人が会場一杯に帰って来てくれました。恩師の先生方も出席して頂きました。セレモニーの後、恩師・同窓生が輪になり楽しい時間を過ごして頂きました。これが恩師の異動がない私学の強みだと感じました。この行事が高校にも広がればと思います。最後になりましたが、学校法人四條畷学園の益々のご発展を祈念し、ご挨拶といたします。

HOME COMING DAY 2018

四條畷学園　ホームカミングデーのご案内

毎年、秋に開催する四條畷学園恒例の「ホームカミングデー」。今年も屋台を出店し、懐かしい恩師や友人との旧交を温める場を提供します。ご家族、ご友人とお誘い合わせの上お越しください。

四條畷学園同窓会WEBサイト

日時　2018年10月27日(土)

問合せ　四條畷学園同窓会事務局
TEL 072-876-1321(代表)　内線 83-601

第一部　講演会 13:00～14:00（開場12:30）

- ●テーマ　「未定」
  講師:四條畷学園大学作業療法学専攻 教授　野口 裕子
- ●会　場　四條畷学園 第二飯盛嶺校舎 9階会議室
- ●会　費　無料
- ●対　象　同窓生・旧教職員・一般

第二部　パーティー 14:30～16:30（開場14:00）

- ●会　場　学園町食堂・若草庭園（予定）
- ●会　費　2,000円（ご家族等同伴者は無料）
- ●料　理　各種屋台（和食もご用意）

※出欠につきましては、同封のハガキにてご返送ください

同窓会だより

22年ぶりの終礼も！
仲良しメンバーのクラス会

6月18日に平成7年度3年7組のクラス会を開催。旧姓原口さんが声かけをし、仲良しメンバー7名が参加しました。担任用に派手な蝶ネクタイも用意してくれて、調理室手前のダイニングルームで11時から盛り上がりました。懐かしいビデオで当時のことを思い出しては語り合い、途中では副担任だった塚本先生も顔出し。みんなで記念撮影、パチリッ!!　気がつけばあっという間の5時間でした。その後校内を案内しましたが、当時の3年7組は3階建て北館の2階つきあたりの教室で、今は建て替えて飯盛嶺校舎となっています。22年ぶりの終礼では、「今日は『父の日』ですよ。早く帰りましょう!」また逢う約束をし、なんと早々と退職祝いの花束までもらってしまいました。担任綱島、まだ辞めません。

台風なんのその！固い絆で結ばれた関東支部
関東支部同窓会

10月22日、例年と同じ新宿三井クラブで12時～15時に、第16回関東支部同窓会を開催致しました。近年まれな超大型21号台風に南から直撃される寸前となり、一時は初めての開催中止も検討いたしましたが、これまで人数は少ないけれど、変わりなく固い絆で結ばれてきた関東支部同窓会を中止することは忍びなく、小谷新理事長先生並びにこれまで永い間面倒を見ていただいた顧問の川﨑先生の強いご支援もあって開催するに至りました。

出席者は、小谷理事長先生始め川﨑先生、同窓生10名（中学2名、高校6名、短大2名）の合計12名でした。小谷新理事長先生に、昨年700名を超える参加があった創立90周年にまつわるいろいろな行事のお話や、学園の歴史50～90年の編纂のこと、人をつくるための教育理念、教育方針の素晴らしさについてお話し頂きました。そしてこれからも進化する学園を、関東からも応援してくださいと締めくくられました。我々同窓生が通っていたころからと比べると大きく発展している母校なので驚くばかりです。川﨑先生の乾杯のご挨拶に続いていつも通り一人ずつ近況報告を行いましたが台風にもめげず皆さん大変お元気そうでした。

今年も美味しい料理を食べながら、話に花が咲きました。来年もこれまでと同じ坂田、田渕が世話役として担当させて頂きますが、時期並びに場所はこれから検討します。長い間同じ場所で開催してきておりますので、ほかの場所を検討し後日ご連絡させて頂きます。

世話役　田渕 昌男・坂田 千恵子

40数年前にタイムスリップ！
小・中学校 有志同窓会「昭和35年会」

10月28日の夕刻、有志同窓会「昭和35年会」を開催しました。会場は、楠公通りの活麺富蔵（いけめんとみくら）さん。小学校当時の恩師中瀬古先生、中学校当時の恩師　谷口先生・吉岡先生、そして同期のみなさん20名、総勢23名にて楽しいひと時に。まるで40数年前にタイムスリップしたかのような雰囲気の中、懐かしい話、近況の報告などで盛り上がり、和やかな会にてお開きとなりました。

この会は、昭和35年度生まれで、学園小学校あるいは中学校に在籍された方々による有志同窓会とさせて頂いており、昨秋は3回目の開催でした。学園創立90周年（2016年）を、同窓生が集うことで少しでも、盛り上げよう！お祝いしよう！との主旨から始まりました。

ご参加頂きました恩師の先生方、同期で発起人の上田君、同期で学園理事の牧田さん、そして同期のみなさんひとりひとりのご理解とご協力の下、学園創立91周年目の昨秋も続けて開催できたと認識しております。改めてお礼申し上げます、ありがとうございました。

今後また当会開催の折には、お一人でも多くの方にご参加頂き、楽しく有意義な時間を共有して頂くことができれば幸いです。

四條畷学園 小学校・中学校　卒業生
株式会社　三香堂
常務取締役　佐々木 啓之

30歳の節目の年に大盛り上がり！
中学校56期生同窓会

3月19日、中学校56期生の同窓会を開催しました。中学校を卒業して15年。30歳の節目ということで久しぶりに同窓会が開催され、約30名が集いました。

15年という一緒に過ごした月日の5倍もの年数が経ち、すっかり大人になったものの、集えばあの頃に戻ったような盛り上がり。懐かしい思い出話、近況報告など話題は尽きませんでした。子供を連れてきてくれた人もいて、お母さんとしての顔を見ることもできました。その盛り上がりが名残惜しく、ほぼ全員が二次会にも参加。二次会の場所は仲間の1人が経営するお店。大きな鯛の造りや有名な良い日本酒などをたくさん振る舞ってくれるなど、大人になったから感じることのできる頼もしさを感じました。今回は1クラスほどの人数しか集まりませんでしたが、次回はさらに多くのメンバーで集まれることを期待しています!

中学校 平成15年3月卒業
山田玲奈

今年も大盛況！200の席は満席に!!
全学同窓会総会ホームカミングデー

全学同窓会ホームカミングデーが、10月28日に開催されました。あいにくの悪天候となりましたが、パーティーが開かれる時には、同窓生・旧職員・現教職員の皆様で学園町食堂の200の席はほぼ満席になりました。

司会の上田尚美さん（平成10年高校卒業）の進行で、第1部は、午後1時から第2飯盛嶺校舎9階会議室で、四條畷学園短期大学の先生方に「健康っていいね―笑う門には福来たる―」をテーマとしてご講演頂きました。

第2部では、会場を学園町食堂に移し、午後2時30分からパーティーを開催。最初に全学同窓会大西寛治会長が同窓会活動へのご理解とご協力に対して感謝の意を表し、引き続きのご支援をお願いしました。続いて、ご来賓を代表し学校法人四條畷学園理事長小谷明様から、理事長ご就任のご挨拶、四條畷学園の近況報告、同窓会活動の発展を期する旨のご祝辞がありました。そして、岡本日出士相談役の「乾杯！」の発声で、賑やかにパーティーはスタート。歓談が進むうちに、古希を記念に出席したグループのスピーチ等、楽しい会話が行き交い2時間という時が過ぎました。樋口平和小学校同窓会会長の中締めでは、学園の発展を祈念し、同窓会活動の活性化をめざして再会を約束しました。

平成30年度は、10月27日(土)に開催いたします。皆様、お誘い合わせの上ご出席ください。

100名以上の卒業生が一堂に
第8回母校で成人を祝おう会

1月8日成人の日、中学校第66回卒業生が集まり「成人を祝う会」を行いました。今年度も新成人を迎えた卒業生が100名以上集いました。5年前はまだ少し幼かった顔も凛々しく大人びた顔となり、晴れ着に身を包んだ姿は立派な成人のものとなっていました。数年ぶりに会う仲間たちや駆けつけてくださった先生方と中学時代の写真を集めた動画を見ながら懐かしい話に花が咲き、催し物には大いに盛り上がり、中学生だったあの頃に戻ったように楽しんでいました。2時間程度の祝賀会もあっという間の時間となりました。この会を機に、10年後、20年後と歳月が経っても学園で過ごした思い出と絆を忘れず、一生の友人であってほしいと思います。

TOPICS

同窓生のイタリア料理店オーナーシェフとのコラボ実現！

高校生提案のメニューが採用に！

高等学校では、「社会で生きる力」を身につけるためのキャリア学習に力を入れていますが、その集大成として、卒業間近の3年生の11月に、クラス対抗のプレゼンテーション大会を行っています。プレゼン大会のテーマは、イタリア料理店『ピッコロ・カンフォロ』の新メニュー提案です。この店のオーナーシェフは、学園中学校卒業生の中田竜史さん（平成4年3月卒業）です。プレゼン大会の当日、中田さんは審査員として来校してくださり、各クラス代表が提案するメニューをプロの視点で審査してくださいました。そして、優勝したチームの提案をもとに、『自家製ベーコンとファルファッレのカボチャクリームパイグラタン』を、今年2月限定の新メニューとしてお店に出してくださいました。中田さんから、「高校生たちの発想はたいへん面白くて、私も勉強になります」という感想を頂きました。

中田さんのお店『ピッコロ・カンフォロ』は、学園の北門を出てすぐのところにあります。「季節の食材を旬の時期に使い、手を加えすぎないという王道イタリアンの当たり前のことを、当たり前のようにお出しする」をコンセプトとして、「イタリアの地方料理の調理法をベースにして、日本の食材を使って日本人の味覚にあうテイスト」をこころがけているとのことです。旬の食材を使ったメニューのほかに、自家製ベーコンを使ったメニューが人気です。

中田さんに学園への思いをお聞きしました。

「私は、幼稚園から中学校までの12年間を学園で過ごさせていただきました。伸び伸びと、時には厳しく育てていただき、良き友にも巡り会えました。今でも同窓生達とは頻繁に連絡を取り合う仲です。学園での日々は、自分の人生において有意義な時間でした。学園は卒業しても大切な場所だと感じております」。

もう大人のつきあい

四條畷学園小学校旧職員
中島 賢二

昨年、高校の教師をしている卒業生に道で会った。「おうっ」という挨拶。その卒業生は、「先生」と答え、わざわざ道をこちらに渡ってきた。「先生、かっちゃん結婚したんやで」。「ほほう、それはめでたい」。しばらく話し込んだ。どうやらそのかっちゃんが私に会いたいとのこと。そこで3人でお酒を飲むことになった。卒業生達も、もう立派な大人。約束した後でなぜか妙な気持ちになった。頭に浮かぶのは小学生だったときの顔しかない。

約束の日、その高校教師と大阪駅で待ち合わせた。どうやら行ってみたい店があるようだ。約束の時間より早めに行ったにもかかわらず、高校の教師である卒業生はすでに来ていた。またしても「おうっ」。かっちゃんは直接その店に来るそうだ。「先生、かっちゃん子どもができるらしいで」。「それはめでたい」。「私は、これお祝いにあげるの」。かわいい紙袋を見せてくれた。なるほど、たいしたものだ。よく気がつく。大人になったなぁと思いつつ、「お祝い」という言葉が頭に残った。「ちょっと時間ある？」まだ約束の時間には余裕があることを確認して、ちょっと寄り道。「デパートの地下でお祝いのお酒を買いたいんだ」。

お店にやってきたかっちゃんは、体は大きくなっていたが目は小学生の時のままだった。今は亡きお父さんの仕事を継いで社長をしているとのことだった。2時間ほど昔話に花が咲いた。時間は行ったり来たり、時間の妙な流れがゆったりと3人を包んでくれた。2人を残して勘定を済ませ私ひとりが先に出た。家に着くまで心が温かいままだった。

教師と教え子との関係が、大人同士の関係も混ざり、新しい形態の関係へと発展しているのを感じた。この仕事を終えた私だが、この仕事を選んで良かったと改めて実感している。

卒業生のみなさん、いつまでも健康で幸せに暮らしてください。切に願います。

卒業生としての誇り−学園−

平成9年3月 中学校卒業　亀井 泰慶

私は大東市深野北で亀井エンジニアリング㈱という会社で総合建設業を営んでおります。父から事業を承継し、早いもので5年が経過いたしました。入社当時は右も左もわからず、社員の方や周囲の方々に大変お世話になり、皆様のおかげで今日まで充実した日々を送ることができています。また、この度はこのような貴重な機会を与えて頂き感謝申し上げます。

学園生活を振り返ってみますと、私は本当に幸せな日々を過ごすことができたとそう思います。素晴らしい先生との出会いや、楽しかった学園生活、今でもつながる友情を得ることができました。また、当時は野球部に所属し堀井先生の愛情あふれるご指導のおかげで、中学野球にとどまらず、高校野球、大学野球、そして社会人野球と素晴らしい経験をすることができました。四條畷学園での経験は今の私の礎となっていると言っても過言ではございません。しかし卒業後はなかなか四條畷学園に行くきっかけもなく、また、大学、社会人は神奈川県に住んでおり、ずいぶんと疎遠になっていました。在学中は少々「やんちゃ」な方だったので行きづらかったのも事実ですが、年月が経ち自分の学生時代がどれだけ恵まれていたかと気づき、四條畷学園に対しての感謝の思いが少しずつ大きくなっていました。きっかけがない中、長男が幼稚園に入園する年齢となり、迷わず四條畷学園大学附属幼稚園に入れると決意しました。入園面接で20数年ぶりに校舎に足を踏み入れ、そこは当時とは違い立派な建物がたくさん建設され、私がいた頃とはずいぶん変わったなと思いましたが、あの頃と変わらない先生たちがいて、あの頃と変わらない雰囲気が感じられてとても懐かしく、自分も大人になったなあと実感したのを覚えています。今年の4月には長男は小学校に入学し、そして次男は幼稚園に入園します。私と同じように、素晴らしい人との出会いや今も変わらない人づくりの教え、子どもにもぜひ学んで欲しいと思っています。

私が今でもつながっている学園の先輩方や卒業生はみなさんパワフルでそして行動力があり、社会・地域においてリーダーシップを発揮している方が大勢います。卒業してそのような方々とつながっていることは私にとって誇りであり自慢です。私も四條畷学園の卒業生として恥じぬよう、学園にそして社会・地域に貢献できる人材になるよう日々努力していきたいと思います。

僕にとって学園の教材園は発見の宝庫だった

平成 8年3月 小学校卒業
平成11年3月 中学校卒業　堀 潤治

丸池では夏祭りから
連れてきた金魚が
野生を取り戻し、
群れをなして泳いでいる。
ため池にはライオンの蛇口が
あってミジンコがいっぱい。
美術室に続く側溝。
覆われている薄い鉄板を
持ち上げると
ザリガニを発見。
割りばしにタコ糸を括り付けて、
エサはスルメ。
「おった！おった！」
誰かが叫んだ。
そこには見たことのない
青いザリガニがいて、
皆集まってきた。

コンクリートの四角い池には
モロコがいて、警戒心が強く
滅多に顔を見せないから、
雨の日に傘さして釣り糸垂らした。
上級生になったら、釣りの腕も
あがり、
友達と緑地公園までいって
雷魚を釣り上げた。
友達が教材園の池に逃がすと
人気の悪役ヒーローになった。

檻かごには金鶏、銀鶏。
あとはキジにマガモ
掃除を手伝ったら教材園の
おっちゃんが内緒で
烏骨鶏の卵をくれた。
持って帰ったら、
えらい親父が喜んで、
好物のチキンラーメンに入れて
旨そうに食っていた。

教材園の目玉はクジャク。
ウサギと一緒に飼育されている。
色鮮やかに羽根を広げ、
どうだ！といわんばかりに
振るわせながら見せつけてくる。
だけどクジャクは好きになれない。
生まれたばかりの
うさぎの赤ちゃんを食べてしまう。
でも先生は助けない。
じっと見てるだけ。
悲しい気持ちと同時に
どうしようもないことなんだと
悟った。

ウサギは沢山いるから、
皆それぞれお気に入りがいて、
抱っこして
赤ん坊のように可愛がる。
たまに大脱走して、手伝った子は
肩身の狭い思いになる。

つき山では男だけの秘密基地。
土管の中で
来るはずもない敵に備える。

一番大きな檻かごの裏の小道に
マムシを発見。
大きな石をのっけたら
死んじゃった。
原口先生を呼んで現場検証。
「このままにしとき。
猫が食いに来る」
次の日に少し後ろめたさを
感じながら見に行くと
見事に無くなっていて、
何か救われた気持ちになった。

20年ぶりに教材園を訪れた。
散歩するとあの時の情景が
浮かんでくる。
ただただ遊んでいた毎日が
学びの場であったことを
大人になって発見した。

キラリひかる！ 活躍する卒業生たち

平成29年に高校を卒業した樋上由樹さんと森瑞貴さんの現在の活躍をご紹介。お二人は3年時のクラスメイトで、当時から樋上さんは救急救命士、森さんは鉄道関係の仕事につきたいという強い思いがありました。

あきらめなかった運転士への夢までもう少し！

森 瑞貴

私は現在、京阪電気鉄道株式会社で車掌として働いています。高校2年生の時、初めて女性が電車を運転している姿を見て、かっこいいと思うと同時に憧れを抱き、自分も将来“電車の運転士”として働きたいという夢を持ちました。

高校時代に進路を決める際、当時の担任の先生や就職担当の先生方のご協力のもと鉄道会社の就職試験を受けることができましたが、不合格。次に進路を考えた時、福祉関係と鉄道関係でとても悩みましたが、鉄道の専門学校に入学しました。学生時代の2年間は鉄道や旅行の事を学び国家資格も取得し、自分の強みを増やしました。学生時代多くの鉄道会社の就職試験を受けましたが、自分が行きたかった京阪電車は当時採用試験が無く、チャンスを待つため、第2志望だった介護福祉の仕事に就きました。社会人2年目の冬に京阪電車の採用試験のポスターを見つけ、その日から必死に勉強し、800人中7人という難関でしたが、内定を頂きました。

入社してから1年間ほど、駅勤務をし、現在は車掌業務をしています。車掌は電車の最後部に乗り、主に扉の開閉、車内放送、旅客案内などを行っています。勤務は毎日時間がバラバラで1週間の中で週明けは夜中1時半頃まで勤務し週末は夜中2時に起きるといったように毎日寝る時間帯が違い体調管理も大変です。その中で多くのお客様から感謝の言葉や時には厳しい言葉も頂きますが無事に目的地に着いた時や、勤務が終了した時に感じる安心感はやりがいにつながります。現状に満足せず、目指すところは運転士なのでさらに勉強し、2年後の運転士登用試験に合格し、研修を経て運転士となれるように頑張っていきたいです。そして、電車の運転士の夢(憧れ)を抱いてくれるような運転士になりたいです。

京阪のポスターの森さん

「ありがとう」を励みに救急救命士として頑張っています

樋上 由樹

現在、私は東京曳舟病院で救急救命士として働いています。私が救急救命士という夢を持ったのは、高校1年生の時でした。母が看護師として働いていたので、医療が身近にあったことで興味を持ち、そのうえで、人の生死を左右する救急の現場で働きたいと思い、救急救命士になろうと思いました。

高校時代は、救命士養成の専門学校に進学するために、勉学とクラブ活動を両立させ、ソフトボール部のキャプテンの重責も担いました。熱いエネルギーの先生方のご指導を受け、高い意識を持った仲間と共に過ごしたことで、目標を高く持って進んでいくことの重要性を感じていました。高校卒業後は、日中はアルバイトをして、夜間に専門学校へ行き救急救命士の資格取得を目指しました。

今私が働いている病院での救命士の業務内容は幅広く、救急車で運ばれてきた患者さんのバイタルを測定、処置の介助、レントゲン検査の誘導、さらに、救急車からのコール対応や医師の診察介助、オムツ交換やシーツ交換や食事介助などの看護師の補助的業務なども行います。

そして、患者さんが急変した場合はいち早く駆け付け、心臓マッサージや人工呼吸を行います。

今、救急救命士として働いて感じることは、高校生の時に想像していた何倍も体力的にも精神的にも厳しい仕事だということです。常に命と向き合っているため責任が重く、緊張した状況が続きますが、その分やりがいを強く感じる仕事です。患者さんが元気になって退院したり、「ありがとう」とお礼の言葉をかけられたりすると、救命士になってよかったと改めて思います。

今後の目標は、救急救命士の知識を活かし、患者さん側の立場になって寄り添いながら、1人でも多くの人の命を助けることです。

四條畷 NEWS

●日高萌さんがバレーボールの強豪東レアローズに入団！

卒業生の日高萌さんがV・プレミアリーグ女子の東レアローズに入団することが決まりました。日高さんの喜びのコメントが届いています。

「この度、東レアローズに入団することになりました日高萌です。私が四條畷学園高校で学んだ、報恩感謝という言葉がまさに今だと思います。今の自分があるのは、沢山の人のおかげであり、その恩に報いるような活躍をしていきたいです。決しておごることなく、初心を忘れずに頑張りたいと思いますので、ご声援のほどよろしくお願い致します！」

母校のバレーボール部顧問白石先生（右）を訪ねた日高さん

。樟藤ンター阪急百口。

●高校文化祭で「同窓会の部屋」を開設しています

今年の文化祭は、9月21日（金）、22日（土）に開催されます。どうぞお立ち寄りください。ご来室の方には、記念品を差し上げます。

また、模擬店で使える金券が当たる福引きができます。

同窓会事務局からのご連絡

1　年会費納入のお願い

同窓会の活動は、同窓生の皆様の入会金、年会費により運営されています。今後の活動のより一層の活性化のために、年会費2,000円の納入をよろしくお願い申し上げます。なお、小・中学校の会員は20歳以降、高校・短大・大学の会員は、卒業後5年が経過した年から納入をお願いしております。

2　住所不明者の所在情報提供のお願い

皆様のお知り合いの卒業生で、会報が届いていない方は、住所不明者になっていると考えられます。学園同窓会まで現住所などをご連絡くださいますよう、お声掛けくださいますようお願いします。

3　「若楠会報」への寄稿について

同窓生の方の近況や開催されたクラス会の様子等をご紹介しています。また、旧教職員の皆様からのお便りも掲載しております。内容は、問いませんので皆様方からのご寄稿をお願いします。

4　オレオレ詐欺にご注意!!

オレオレ詐欺などの詐欺の電話が多発しています。犯人は、高校の同窓会名簿などから、電話番号や息子の名前などを入手し、電話をしてきます。十分ご注意してください。

※普段から留守番電話にするなどの電話対策が有効です。

●同窓会事務局のご案内

四條畷学園内清風学舎６階に事務局があります。お問い合わせや情報の提供をぜひお寄せください。また、機会があればお立ち寄りください。

TEL：072-876-1321　内線：83-601
火・水・木曜　8:30～4:00　事務局長在室

素晴らしい出会いに感謝！

平成26年 短期大学　ライフデザイン総合学科
（総合福祉コース1期生）卒業
宮田由佳（旧 村奥）

梅のつぼみもふくらみ始め、春の足音が近づいて参りました。卒業生の宮田由佳です。

私は卒業後、枚方市にあるユニット型特養老人ホームに就職し、利用者の人生最期の生活のお手伝いをしながら、現在はユニットリーダーとして日々楽しく仕事をしています。夫は、京都市でデイサービスのリーダーとして毎日利用者の笑顔を増やすために忙しく働いています。私たちは、お互いが介護福祉士なので、仕事であったことを相談しあったり嬉しかったことを報告したりして仕事も私生活も充実しています。

そんな私たちの出会いはなんと、四條畷学園短期大学の同じ介護福祉学科の先輩後輩でした（お互い学友会役員でもありました）。先輩である夫が卒業してから付き合いが始まり、4年間の交際を経て2017年1月14日に入籍しました。結婚式も終わり仲良く新婚生活を楽しんでいます。

私は、鳥取から介護の資格取得のため大阪にやってきました。初めての一人暮らしに戸惑いながらも日々の勉強や部活動にいそしみ、よき親友に恵まれ充実した2年間を過ごすことができました。

いろんな出会いと思い出がある四條畷学園短期大学の「介護福祉学科・総合福祉コース お別れパーティ」が1月13日にあり、私たち夫婦はそろって出席しました。第1部では、現在の２年生の介護事例研究発表があり、実際に介護現場に立って見える目線と実習生だった頃の自分の両方のことを考えながら発表を聞いていました。私自身、実習生の時は学校で習っている事が目の前で起きたり、現場に戸惑いを感じましたが、今はスタッフとしての違う目線で後輩たちの報告を見ることができていることに、自分自身の成長を感じました。そして、後輩たちにも素敵な介護福祉士になってほしいと思いました。

第2部の懇親会では、久々に会う先生方、旧友、先輩、後輩と思い出話に花が咲き、本当に楽しい時間を過ごしました。

最後に、いま私のお腹の中には新しい命が宿り、私は母になり夫は父になります。これを機に私の実家である鳥取県に移住し、これからも共に支え合っていこうと思っています。私たちが出会い、青春を過ごした母校、四條畷学園短期大学の介護福祉学科・総合福祉コースがなくなることは悲しいことですが、素敵な思い出として心に刻んでおきます。

日々感じる保育に携わる喜び

昭和63年 短期大学　児童教育学科
（幼児教育学専攻）卒業　小川 洋子

四條畷女子短期大学を卒業して30年が経ちました。卒業してから何度か研修などで大学に伺う機会があり、新しく建てられた学舎を拝見して「なんと素晴らしい！これこそ大学のキャンパスだ」と思いました。私の大学時代は花のキャンパスといった感じではありませんでしたが、同じ目標に向かって学ぶ学友がいて、高い専門性をもった先生方が多くおられました。講義だけではなく、実技の授業が充実しており、体育、水泳、リズム表現、栄養実習、図工など、その中でも、ピアノは特に厳しく大変苦労した思い出があります。しかし、実際に働き始め、子どもたちにとって音楽の大切さ、表現することの楽しさがいかに大切であるか、現場で感じることができました。保育士になるために必要なあらゆることを学ばせていただいた2年間でした。

保育園に勤め始めた頃は、日々の保育、行事に追われ、気がつくとあっという間に1年を終えていたという感じがしました。若い頃は、保護者対応の難しさに悩んだこともありました。保育士としていろいろな経験を積み、現在、枚方市の樋之上保育園で園長として8年目を迎えました。デスクワークばかりにならないよう、今もクラスにお邪魔して、子どもたちと一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせをして子どもたちとの関わりを持つことでパワーをもらっています。現場での経験を活かし子育ての楽しさを伝えるとともに育児相談員として保護者や地域子育て支援にも取り組んでいます。私自身が今の自分になるまでに、多くの方々にご指導や助けを頂いたように、職場の人間関係や働きやすい職場づくりを大切に、人が育つ職場環境になるよう努力していきたいと思っています。

最近では、卒園児が結婚をして、その子どもの保育に携わることができ、また、保育士となって同じ現場で働くことができるなど、日々喜びと楽しみが感じられる保育という仕事に心から感謝しています。

楽しかった短大時代、恋しい短大ライフ

平成29年 短期大学
ライフデザイン総合学科卒業
杉本 実祐

昨年3月に短大を卒業してはや1年が過ぎようとしています。私は現在、病院で医療事務に従事しています。

短大時代の思い出といえば、なにより友達と過ごした時間だと思います。大きなイベントや行事でなくても、授業の休み時間や通学の途上など、友達と笑ったりしゃべったりして過ごした何気ない毎日のその時間です。仕事をし始めてから友達となかなか会えなくなってしまい、とても短大時代が恋しいです。学生の頃に、先生方やまわりの大人たちが「毎日友達と会える環境を大事にしなさいよ」と言ってくださるのを聞いて、その時は軽く受け止めていましたが、社会人になってこの言葉の重さがとてもよく分かるようになりました。

また短大時代の授業も今では恋しいものの一つです。正直にいうと、座学は眠たくなるし、学生時代は好きではなかったのですが、今にして思えば、何も言わなくても教えて頂ける環境があり、それはとても幸せで恵まれたことだったのです。医療系の仕事に就いてから分からないことばかりで、「あー、もっとちゃんと授業を聞いておけば良かったな」、「熱心に質問すれば良かったな」と思うことが多々あります。「テストのためだけじゃなく本気で暗記などしておけば絶対役に立ったのに」とも思います。後輩たちにはぜひ、熱心に学んでほしいと思います。卒業してから気づいても遅いですから。

もう一つの短大時代の思い出といえば学友会活動です。学友会に入ることで保育学科の人や四大生とも関われましたし、先生方とも親しくお話しさせていただきました。私はもともと人と関わってワイワイするのが好きでしたが、短い短大生活のなかで学友会に入ることで沢山の人と関われ、どんどん人脈が広がるのがとても嬉しかったです。アルバイトとの両立が大変と思われることもありますが、それであきらめてしまっては残念です。学生ならではの時間を楽しんで過ごすことは、とても大切な経験だったと思います。

とにかく短大時代の思い出は楽しいことばかり浮かんできます。でも2年間がこんなにも楽しかったのは、やはり一緒にいてくれた友達のおかげです。これからも短大時代の友達を大切にしてずっとつながっていきたいと思います。

先生・先輩の指導のもと研究発表を実現

平成25年 大学リハビリテーション学部
（理学療法学専攻）卒業　植田篤史

私は現在、勤務している病院で野球選手を中心としたスポーツリハビテーションに携わっております。これまで、私がスポーツリハビリテーションの臨床・スポーツ現場を経験する中で、野球選手の身体特性と投球障害との関係について興味を持ち、当院に来院した野球選手を対象としたフィジカルチェックを行いました。このフィジカルチェックのデータをまとめるにあたり、橋本先生（前四條畷学園大学教授）、木下先生（短大2期卒）、井上先生（短大2期卒）、田頭先生（短大4期卒）をはじめとした四條畷学園大学出身の先生、先輩の方々にご指導をいただき、日本臨床スポーツ医学会学術集会で研究発表をすることができました。

私は自己の不十分な部分に気付き、さらに研究を発展させるため、同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程にて勉強に励んでおります。大学院ではスポーツバイオメカニクスの研究室に所属しており、モーションキャプチャーシステムを用いた投球動作解析と野球選手のフィジカルチェックのデータの関係性について、研究を行っています。

今後も理学療法の専門分野だけでなく、スポーツマネジメント、健康科学、トレーニングなどのスポーツの様々な分野を学び、より広い視野で理学療法の専門性や自分自身の研究分野を深めていきたいと思います。